



ふるさと笠松の「ちょっといい話」No.72



「ボランティア精神の持ち主を見つけました。」



八幡神社周りを清掃中の様子↑

左の写真の方(匿名希望)は、八幡神社のまわりを10年以上の長きにわたって、自主的に掃除をされているそうです。それも1日に2回、午前10時と午後6時頃に1時間ずつ掃除をされているとのこと。なぜ、自ら進んで掃除をしてみえるのでしょうか？そこで、その方にインタビューをさせていただきました。

問 自主的に掃除をされるようになった動機は何ですか？
答 駐車場や道ばたの落ち葉がとても気になりました。美しくしたい、きれいにしたいと思ったから始めました。桜の木などの葉っぱが落ち始めるこれからの季節が、特に大変です。

問 10年以上も続けられたのは、どうしてでしょう？
答 まわりの人に「ありがとう」と言われると、うれしい気持ちになりました。また、美しくなった境内や道路を見ると心がすっきりします。だから自分一人で、今まで続けることができたのだと思います。

ありがとうございました。これからもお元気で、町を美しくするために、掃除をお続けください。

「ボランティア(volunteer)」とは？・・・広辞苑には、「義勇兵の意」とあります。つまり志願者のこと。奉仕者とも訳されます。今では、自ら進んで社会事業などに無償で参加する人のことを意味することが多くなりました。

「何これ？不思議」町内でこんなものを見つけました。



笠松町を歩いていたら、写真のような物を見つけました。明らかにイヌの糞対策です。その近くには、「まちをきれいに」という看板があります。ということは、看板を無視してイヌに糞をさせて、そのまま行ってしまう飼い主がいるということです。誰にも分からなければ「知らんぷり」をする人がいるということです。もちろん看板なんかなくても、自分のイヌが糞をしたら、飼い主の責任で持ち帰るのが「当たり前」です。一部の飼い主がその当たり前を守っていないから、きっと、こんな対策を行わなくてはいけないのでしょうかね。飼い主のモラル向上を願いたいですね。

でも、ネコへの対応はどうしたらよいでしょう。ネコを敷地へ進入させないための方法として、ペットボトルは有効だという話を聞いたことがあります。どうしてペットボトルが有効なのでしょう。水を入れたペットボトルは乱反射するので、その光をネコが嫌うということらしいのですが、根拠は弱いようです。ただ、ペットボトルが集光レンズの役目を果たし、火事になりやすいことは事実です。十分に気を付けたいですね。

●心あたたまるいい話●それは★意外な話★ピンチに天使が舞い降りた話

「恩送り」・・・人から受けた恩を、ほかの人に順に送っていく意味

昔は「かわいい子には旅をさせよ。」今は、「子が、かわいかったら親が旅に出よ。」

昔は交通が不便だったので、旅はつらく、苦勞が多いものでした。だから、つい甘やかしがちな子どもには、世の荒波にもまれて、つらさや苦しさを経験させることがよいという考えでした。しかし、今では旅は快適なものに様変わりしました。そこで、見出しのように「親が子どもを家に残して旅に出る」ことによって、子どもにつらさや苦しさを経験させ、鍛えることができるというように考えが変わってきました。

さて、皆さんはかわいい子どもを家に残して、旅に出ることができるのでしょうか？？

※皆さんから「ちょっといい話」を募集しています。笠松中央公民館担当まで電話やFAXなどで連絡をお願いします。